

手をつなぐ

SHIZUOKA

Vol.35

Published on
February 1st, 2024

- 02 静岡県手をつなぐ育成会 小出会長の所信『今後の育成会について』
- 03 2023年度年間活動
- 04 インクルーシブ教育
- 06 自立セミナーの本人発言
- 07 県内のキャラバン隊活動紹介
- 08 各地育成会紹介・事務局からのお知らせ





静岡県手をつなぐ育成会
会長 小出隆司

まず今年度の活動を振りかえります前に、『令和6年能登半島地震』により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日も早い復興をご祈念申し上げます。

静岡県手をつなぐ育成会会員の皆様、新型コロナウイルス感染症は2類相当から5類へ引き下げられました。が、感染がなくなったわけではありませぬ。引き続き感染防止対策をお願いします。また、献身的に支援して下さっている福祉事業者及び関係する皆様に深く感謝申し上げます。

第55回手をつなぐ育成会

東海北陸大会愛知大会

さて、昨年10月7日に愛知県刈谷市で4年ぶりに参加型で行われた第55回東海北陸大会には、本県からも

大変心強く思いました。大会はコロナ感染症も考慮して半日での開催となりましたが、式典、中央情勢報告、パネルディスカッションとコンパクトにまとめられておりました。大会スローガンは東海北陸を舞台とするNHK大河ドラマ『どうする家康』に重ね、『どうする育成会』の次の世代につなげていくためにと掲げました。そのテーマに関係するパネルディスカッションと並行して本人大会が行われました。会場の小ホールが満席だったとのこと。その会場で本人たちが話し合っただけで決議文を本大会会場で堂々と発表しました。その姿は会場にいる全員の心に響きました。その時、私は育成会の方向を改めて本人たちが示してくれたと確信しました。

育成会中央情勢報告

全国手をつなぐ育成会連合会は新型コロナウイルス感染症の災害対応を行ってまいりましたが、感染法上の5類への引き下げにより災害対応を解除し、全育連組織運営の平時体制移行を行いました。これにより、理事選任及び会長任期の特例適用が終了し、久保厚子氏が該当することから、今年度の

新しい時代へ向けて、持続可能な育成会活動を考える



9月2日 セミナーで「信託」について講演。午後は本人座談会を開催



6月24日 県大会。記念講演が行われました

9月	8月	7月	6月	5月	2023年4月
2日(土)第31回知的障害者職業自立啓発セミナー 4日(月)県健康福祉部長と県社会福祉協議会連絡協議会との懇談会 12日(火)第1回児童部会 25日(月)第1回しずおかサポートファイル推進委員会		14日(金)令和6年度県への社会福祉に関する要望事項提出(県社協あて)	24日(土)午前:各市町育成会代表者等会議 24日(土)午後:第64回県育成会大会	19日(金)第1回理事・評議員会	県社協助成金実績報告書提出 14日(金)第1回常任理事会 21日(金)監事監査

2023年度 県育成会ノ動き

各活動の詳細はホームページに掲載しています。ぜひご覧ください

<http://www.iku-fukushi.jp/index.html>

通常総会・理事会において会長を退任して理事及び顧問となりました。

新会長には東京都手をつなぐ育成会理事長でありました佐々木桃子氏が選任されました。また、昨年3月末をもって退職された田中正博元専務理事の後任理事には、堺市手をつなぐ育成会会長の小田多佳子氏が就任しております。なお、久保顧問には成年後見制度利用促進専門家会議及び成年後見制度の在り方研究会など、専門性が高い国の委員などに当分関わっていただくことになっております。

育成会活動の必要性を語る

現在、第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画の策定が皆様の市町自立支援協議会等において行われているものと思えます。そこには知的・発達障がい児者の代表として育成会が参画しているでしょうか。これらの計画値は、わが子たちが真に必要とする障害福祉サービス等の提供を行う地域の体制を作り上げるものです。

静岡県手をつなぐ育成会では、皆様からの要望を取りまとめ、多くの声を静岡県へ提出しております。ぜひ、皆様様の地域においても、わが子が支援を受けられるように力を合わせて声を上げていただきたいと思います。

それに加え本年(令和6年)4月か

ら障害者総合支援法等の改正と障害福祉事業に係る報酬改定がダブルで行われます。主な項目で、居宅支援(GH)の在り方検討、地域生活支援拠点設置の努力義務化と障がい者の就労支援は、雇用・福祉における分野横断的なものとして注目したいと思えます。また障害者差別解消法も4月から改正され、民間事業者による合理的配慮の提供が義務化されます。障がいがある人ない人、誰もが地域で自分らしく安心して暮らせる「共生社会」の実現に向けて、これまで以上に取り組んでいきましょう。

若い力へつなく活動を

市町育成会においては、若い会員の減少と高齢化が言われており、中心となる人材の確保が課題となっております。昨年の東海北陸大会でのパネルディスカッションで、愛知県武豊町育成会長の倉知楯城さんが会を立て直すため、若い人が興味を示す活動を継続的に実施していくことと、若い人の口コミでの広がりや活用を言われておりました。示唆に富むご意見でした。私たちも、わが子のために力を合わせて地域で声を上げていきましょう。

次代へつなく、学齢児・就労者支援のための保護者・支援者による部会を定例開催



10月17日 県内各地の就労部会委員と県行政担当者で情報交換と懇談会を実施



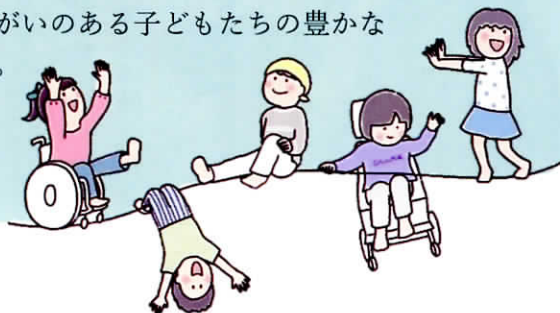
9月12日 県内各地の児童委員と県行政担当者で情報交換と懇談部会を実施

3月	2月	2024年1月	12月	11月	10月
25日(月)第2回理事・評議員会	第3回常任理事会 21日(水)第2回児童部会 2月~3月第2回就労支援部会予定	知事などへの新年挨拶 20日(土)知的障害者相談員等研修会(中央研修) 27日(土)~28日(日)第9回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会・愛媛大会	14日(木)~18日(月)第32回愛護ギャラリー展	25日(土)第36回静岡オレンジマラソン大会	7日(土)東海北陸大会愛知県大会 小出会長パネリスト登壇 17日(火)第1回就労支援部会 24日(火)第2回常任理事会 26日(木)自由民主党静岡岡県連厚生問題対策連絡協議会出席
2024年度へのスタート準備		令和5年5月から7月にかけての大雨による災害への義援金を全育連へ送金			

県下会員の皆様、
2024年度も県育成会活動へのご協力をお願いいたします

溯って2006年12月、障がいのある人に関する初めての国際ルール「障害者の権利に関する条約」が国連総会で採択されました。日本は2014年1月にこの「障害者権利条約」に批准しました。その間、障がいのある人の人権や尊厳を尊重する多数の国内法の整備・改革が実施されたことは、皆さんご存知の通りです。

こうした法整備は、確実に社会の中に「障害者観の転換」をもたらしましたが、共生社会の実現には、障がいのある人となない人が相互理解を育む環境整備や学びの場が必要です。昨年9月、国連の障害者権利委員会から、日本の分離教育の廃止を強く求められました。私たちは今、障がいのある子どもたちの豊かな人生を保障する教育のあり方そのものを再考する必要があります。



～多様な仲間との学びに大きな意味がある～

インクルーシブ教育を考える

分離教育は進むよどこまでもー

現在、特別支援学校・学級、通級指導教室などの特別支援教育の対象とされる児童・生徒は全国に約62万人。10年前の2倍以上の増加です。(2015年版障害者白書) 少子化で通常級の小・中学生が100万人近く減少している中で驚くべき増加率です。その分、特別支援学校、特別支援学級も増え、ますます分離教育が進んでいると言わざるを得ません。

「分離特別教育を終わらせることを目的として、障がいのある児童が障がい者を包容する教育（インクルーシブ教育）を受ける権利があることを認識すること」と、かなり強い言い方で国連の障害者権利委員会から勧告された日本側（文部科学省）の主張は、「多様な学びの場」を設けてインクルーシブ教育を実現しつつある。」としています。しかし結果としては分離がすすんでしまっているのが現実です。

静岡県が進める

「共生・共育」は

静岡県は、共生社会の形成を目指す推進体制の施策の中で、特別支援教育について、現在の「共生・共育」

の理念は継続することとし、「障害のある幼児児童生徒も障害のない幼児児童生徒も、居住する地域社会の中で、共に支え合い育つとともに個の教育的ニーズに応じた適切な教育を行うことを目指す。」というイメージで、現時点での考えを示しています。更に、今後の重点として、多様性を認め合う人権教育の推進

・ 実態に応じ、学びの場を柔軟に選
択できる体制づくり

・ 共に学び過ごす機会の創出
などが挙げられています。

県教育委員会では、インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の検討を、インクルーシブ教育推進ワーキンググループ、自立支援協議会学齢部会などの協議を重ねながら、今後の「共生・共育」の具体的な方向性を模索しています。

大阪発!!

市の教育理念は
「フル・インクルーシブ教育」

大阪府豊中市にある市立南桜塚小学校にはさまざまな障がいを持った児童が在籍し通常学級で普通に授業を受けています。全盲の児童

を慣れた感じでサポートするクラスメイト。難病の児童、重度知的障害のある子に対しても、障がいのない子が何かしてあげるとか、手を出し過ぎることもない。また、障がいのある子が面倒をみてもらうという姿勢もない。できることは自分でやる。クラスの係も、不便な部分は友達と一緒に普通にこなす。これが当たり前のことだといえます。

映画「みんなの学校」で見たそのままが毎日の学校生活で当たり前に行われていることに驚くばかりです。教室には障害児だけでなく外国籍の子、貧困家庭の子など多様な子どもたちが交流するなかで、子ども同士での学びが人としての成長にとっても大きな意味を持つということをつくづく実感させられます。

この「共に学び、共に育つ」教育を可能にしてきたのは、『原学級保障』という大阪府独自の教育のやり方で、大阪府下の公立小・中学校の多くで原学級保障方式が実践されているということです。

静岡県で今の教育システムをすぐに変えることは難しいことですが、分離からインクルーシブへ、その先にある「すべての人が共に生きる優しい社会」を皆で目指したいですね。

インクルーシブ教育を考える機会を作る

『みんなの学校』上映会開催



2023 年度中部地区連合会相談員役員研修会

2023 年 11 月 5 日(日)

担当：島田市手をつなぐ育成会

後援：島田市、島田市社会福祉協議会

映画を鑑賞された皆さんの感想を紹介します



島田市本人会が運営をお手伝い。

リハーサルで動きを入念に確認

この上映会をどのように知りましたか？チラシ 54 口コミ 24 SNS 8 その他 22
今後上映して欲しいものは？「夢パの時間」「自立への道」。障害児教育について。大人(障害者)の話

【一般の方の感想】教育委員会、学校側の考え方が変わることが重要/学級の中に障害のある子がいると周りの子どもたちがとても優しく思いやりのある子に育つと思う。ただ本人にとってはどうか？みんなやってもらってしまう可能性が大きい。本人の能力を伸ばすためには待つことも大切。特別支援学級の意味は大きい。もっと教員や支援員を増やすべき/支える人たちを増やしていくことが大切。まだ学校に関わることへの壁は厚い感じがする/一クラスの子供の数を減らしてくれたらもう少し改善されるのではないか/気軽に相談できる窓口があること。困っている人にわかりやすくなっていることが大事/国が教育予算を増やして対応するしかない/一番難しい偏見に対する取り組みが状況を打開する方法の一つ。障害は変えられませんが障害は取り除くことが可能/サポーターを増やして欲しい/学校の先生は誰も良いクラス、学校にしたいと思っている。今回上映された校長先生のようにこの子がいなければと思ってしまうこともあると思う。児童や生徒を取り囲む環境がみんなで見ている！という環境になれば地域の学校で学習しやすい状況を作れると感じた/いろいろな人が関わる必要はあると思う。教員が心に余裕がないと良い教育は実現しない。安心して教育(仕事)に取り組める環境を作るのは重要である/支援学校 30 年！とても難しい問題だと思う。地域が考えなくてはいけない課題は山積みだと思う/【障害当事者家族の感想】学習についていけず困っていても普通級で頑張りたいのにサポートする人がいないからと断られたことがある。高学年だからといってサポートしてもらえず授業がわからないまま終わってしまった。サポートできる人を増やして欲しい/障害児教育で親が希望する地域の小学校で専門的に見てくれる所がほしい。せめて小学校だけでも地元でとがんばっていても圧力はなかなか強く一方的になりがち。学校からこれが正しいと押し付けられれば頑張れない。残念だ。障害児を知らないで育つ健常児が大人になっても障害に対して無関心でいられる。これこそが不幸だ/現在支援学級に所属だが、特別支援学校の方が個別対応していると進められる。地域の地域の人と共に学ばせたいと強く思っているがなぜ支援級でそのような形が取れないのか/他府県や海外の事例などを幅広く参考にする/コーディネーターの人数が少なすぎる/先生の数、ボランティアが不足している/現在中学 1 年支援級ですが通常級との関わりが少なく支援級だけ孤立しているように思う。大空小学校のような中学校もあればと思う/日本全体の問題。子供、人を育てる国にしていけないといけない/孫は軽度の知的障害で中学から特別支援学級に。すると以前仲良くしていた級友たちが次々と様子を見に来るので孫が落ち着かず嫌がりました。大空小学校のように育ててくれれば孫ももっと楽に学校生活を送れたのでは/不登校になった時対応する人員を増やしていかなければならない/学期の途中でもその子に合った環境に身をおける制度の緩さが欲しい/【福祉関係者の感想】地域と共に頑張らしましょう。人の子も自分の子も愛情を持って/普通教室の中に支援が必要な子がいる事は子供にとっては当たり前のこと。大人が考えを変えるべきだ/教職員が一度大空小学校に出張して勉強会を開いたらどうか/生徒が安心して通える雰囲気を作りいろいろな個性を持った人たちが共存して良いと感じられる、そんな居場所がもっとできるといい/インクルーシブの視点で共に学び合える安心の場が、専門のサポート体制や余裕のある配置により実現することを願う/【教育関係者の感想】特別支援学級のことを普通学級の保護者があまり理解していない。特別支援学級の良さを広めて、偏見をなくしていく必要を感じる/困っている子の周りの子供が成長するチャンスは共に学び合うことから生まれると思う。違いを大切にする多様性を学ぶ機会がある教育環境はこれからの時代なくてはならない/「みんなの学校」や諸外国のように支援級、支援学校がない方向性を望む。教員数の増加をしてほしい /地域ボランティアを学校に増やす事はもちろんだが、幼少期から支援の必要な子どもたちと同じ空間で混在して育てていくことで子供同士の教育ができる/国が優先して関わること(現場が声を大にして)が大切/



打ち合わせでは小さな声で戸惑ったように話していたという皆さんが、本番は自分の言葉で自分の経験と思いをしっかりとお話してくれました。

【発表者の声】

「転職も経験しました」「話を聞いてくれる上司がいます」

「職場の理解があって働き続けています」「いろいろあるけど、支えてくれる家族や仲間がいるから働き続けられます」「言えてなかったから言いたい、お母さんありがとうございます」

【座談会を聞いて】

専門的な仕事にご本人の特性が合い、気負いなく取り組んでいる姿に『職人』を感じました。通勤は「バス」「電車」「自家用車」「自転車」ご本人が使える手段で自力通勤出来ていることがとても良いですね。知的障害者が働きやすい環境を、私たちがもっと訴えてあげたいです。

【発表者の感想】

緊張したけど思ったことができて良かった。他の地域の人と話しができて良かった。

みんなのそれぞれ個性的な意見が聞けて良かったと思う。聞いている人がどこから来ているのか分かるようにしてほしい(ランダムに座るのでなく地区ごとに座ってほしい)。

働く本人が
自分の言葉で
「人間関係について語り合う」
座談会を開催



10月7日 愛知県刈谷市 東海北陸大会報告

ドウスル育成会

第55回手をつなぐ育成会東海北陸大会が10月7日(土)に愛知県刈谷市総合文化センターで開催されました。

分科会の開催こそなかったものの『どうする育成会』～次の世代につなげていくために～というスローガンを掲げ、感謝状・表彰状の贈呈、中央情勢報告・パネルディスカッションと進みました。中央情勢報告では今後の法制度のうごきという主題で障がい福祉サービスの動向・成年後見制度の見直し議論・権利条約の対日審査などの説明が行われました。年々制度改正は進められますが、法の改正・制度の見直しだけが先行して地域格差が益々広がっていく感を強く感じました。パネルディスカッションではパネラーで小出会長が登壇し、愛知県武富町の倉知会長と今後の育成会活動の在り方について熱心な議論が交わされました。ここでも育成会会員の減少や活動をどうやって活性化していくのが大きな課題として取り上げられました。

本人部会は久しぶりにたくさんの仲間たちが集まり賑やかに進行が進みました。交流会では7県1市の仲間の発表。代表者による本人決議案を発表し全員で確認が行われ、代表者が大ホールにおいて決議案の発表を行いました。今回の本人部会での最大のイベントは『知多娘』がゲスト出演してくれたことでした。仲間たちは間近でアイドルたちと交流し大変な盛り上がりとなりました。この会を企画して頂いた刈谷市の役員さん達に感謝したいと思います。尚、今大会で表彰された方は富士市の金谷弥生さん・袋井市の高橋秀夫さん・静岡市の中村公洋さんの三名になります。

報告：静岡県手をつなぐ育成会副会長
中部地区連合会会長
杉本 斉



愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡の7県と名古屋市が一堂に



表彰を受けられた皆様。小出大会会長から賞状と記念品を贈呈



本人大会に登壇した各県代表者。コロナ禍での体験や自立についての発表に多くの方が共感

伝えれば、わかる。わかれば、変わる。

キャラバン隊は平成十五年に神奈川県座間市でたちあがり、全国に広がっています。寸劇や体験、ロールプレイなどを通して、障がいのある人の感覚や置かれた環境を伝えるというものです。参加者の固定観念を見直し、より深く知的障がいについて知ってもらうことを目的としています。地域の中に障がいのある人のことを理解してくださる人が増えれば、彼らの暮らしはより楽しく円滑なものになっていくでしょう。そしてそういった地域は、障がいのある人だけでなく地域の人みんなが優しく支えあえる素敵な街になっていくのです。静岡県内では、

- * 静岡市清水育成会 (平成二十一年発足)
- * 浜松市浜松育成会 (平成二十一年発足)
- * 静岡市静岡育成会 (平成二十九年発足)

の三か所があります。

● 浜松市浜松手をつなぐ育成会 キャラバン隊 浜キャラ



「みんなちがってみんないい」を合言葉に、知的障がいや発達障がいのある人がどんな人か寸劇や疑似体験を通して伝える活動をしています。

写真は路上演劇祭、障害のことを知らない人も足を止めてくれる貴重な場所で、毎年参加しています。

● 静岡市静岡手をつなぐ育成会 しずおか♡おでんジャー



静岡おでんを美味しく食べるには出し粉と青のりは欠かせません。

理解(出し粉)と支援(青のり)があれば、静岡おでんのように美味しい豊かな社会になるのでは？と考えています。

公演をきっかけに、その時、自分のできる方法で、見守ったり、手助けをしてくれる人が増えることを願っています。

● 静岡市清水手をつなぐ育成会 キャラバン隊 ダイパニック



私たちの公演先は様々です。民生委員さん、ボランティアさん、ヘルパーを目指す方、地域の方々、学生さんなど。その時々で公演を観てくださる方に一番わかりやすく身近に感じられるプログラムや資料を考えています。今まで一度として同じ公演はありません。疑似体験や特性を知ることによって知的障がいについて考えるきっかけになってもらえるとうれしいです。

六月十七日(土)に静岡市内で開催された「司法への公平なアクセス・ベシック支援人養成基礎講座」(主催 静岡トラブルシューターネットワーク)で、県内三つのキャラバン隊が合同で寸劇を行いました。知的障がいのある方が逮捕されたら、どんな配慮が必要でしょうか?自閉症の男性がカフェでトラブルになってしまい、警察に現行犯逮捕されて裁判を受けるストーリーを演じました。それぞれの場面で周囲の不適切と思われる言動や行動を参加者が指摘。どのような配慮が必要だったかを参加者みんなが考えていきました。



合同で研修会に協力



各市町育成会の一言 PR

・育成会名・会長名
・PR

浜松市浜北・伊藤基久
旧浜北市の全世帯が賛助会員、その支援のもと活動

浜松市浜松・小出隆司
世代や課題に応じた活動を展開中

磐田市・高橋隆代
団体活性化のため、新しい運営方法を模索し実施中

袋井市・早川俊之
「障がいのある人のためのクリスマスコンサート」を実施

菊川市・服部秀俊
本人部会を中心に、学び、体験に力を注ぐ

川根本町・後藤 勝
会員 24 名、1 泊旅行で意見交換

静岡市静岡・中村章次
地域と他団体との連携、協力により、本人が活動に楽しんで参加

島田市・杉本斉
なるべく多くの方に本部役員を経験して頂く

森町・藤原幹恵
親同士の関係作りを大切に活動

掛川市・高木敏男
もっと楽しく、もっと元気に、多くのつながりを深める

御前崎市・水野正教
余暇活動に力を入れており、社会福祉協議会と連携

富士宮市・高橋房恵
65 年の歴史の重みを感じつつ活動

富士市・金谷弥生
専門部活動、地活、市受託事業など充実！

静岡市清水・寺田卓代
つながるきもち 先輩親から若い親へ 仲間から仲間へ

藤枝市・河原崎守也
手をつなぎ助け合い 明るく笑顔で歩む

焼津市・田村正志
顔の見える活動を地域密着で

吉田町・藤田洋司
にこにこ青年講座で毎月楽しく生活の術を学ぶ

牧之原市・間淵安恵
のんびりポチポチ、我が子達のために活動

小山町・白井美喜子
駿東郡の 3 町で、交流会を年 5 回開催

御殿場市・外山富士子
障がい者施設も多く、他団体との交流も盛ん

沼津市・尾藤正弘
「親亡きあと」を考え、勉強会や見学会を実施

清水町・高塚一夫
民生委員の障害者部会で現状等を話し、会員募集の協力を要請

伊豆の国市・室伏利男
本人会員で事業を提案し、積極的に参加

伊豆市・水谷照美
笑顔で寄り添えあえる時間をつくる

松崎町・山本政弘
県内で最も人口が少ないけど頑張っています

長泉町・奥村亮子
地域のボランティアや民生委員等に協力依頼

裾野市・阿部征雄
今年で設立 60 周年！

三島市・秋山 裕子
寄り添い つながる

函南町・佐藤則博
相談支援事業所、福祉課、社協、自立支援協議会、各事業所と活動

熱海市・堀之内 鈴子
共に学び、楽しく活動

伊東市・山本真由美
人や資金がないなか、あるのは元気と笑顔

東伊豆町・平井正晴
細々ですが楽しく活動

下田市・進士信行
高齢化に負けないぞ！

南伊豆町・松井信親
会員相互で助け合い活動



全育連機関紙「手をつなぐ」購読のご案内
「手をつなぐ」の購読者は、全国手をつなぐ育成会連合会の賛助会員となります。*購読料 年間 3,900 円
〈購読希望者の問い合わせ、申し込み先〉
静岡県手をつなぐ育成会事務局 (054) 254-5230 担当：鈴木

「手をつなぐ」は、知的な障がいのある当事者(本人・家族)に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策などの記事を中心に、編集・発行している機関誌です。当事者のこと念頭において、およそ 50 年近く、編集・発行してきました。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。

表紙：「手をつなぐ」の表紙は、知的障がいのある人の絵で飾ります。
特集：毎月のトピックスや各地の活動・取り組みを紹介します。
ふれあい交流通信：知的障がいのある人自身のページです。本人の活動や本人の声を紹介します。
中央の動き：最新の国の動きを紹介します。
各地の動き：各地の活動を紹介します。
世界の動き：世界の知的障がい関係の情報をご紹介します。
国際育成会連盟やアジア地域のニュースを紹介します。

今号の作成は中部地区連合会が担当しました。
編集委員会座長：島田市育成会・杉本
副座長：清水育成会・佐野
編集委員 静岡市育成会・毛利、川島、長房
清水育成会・須田 焼津市育成会・岩瀬

発行：静岡県手をつなぐ育成会
〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町 1-70
静岡県総合福祉会館「シズウエル」3 階
TEL054-254-5230 FAX054-254-6396
Eメール：s-ikuseikai@iku-fukushi.jp